

(変更) アート・アクティヴィズムに関する展示は当初セミナー開始の2週間前から神奈川大学みなとみらいキャンパス1階で行う予定でしたが、6月15-16日の2日間限定で、同キャンパス4階にて行うことになりました。東南アジアドキュメンタリー映画の上映もこの2日間、4階にて行います。

(新規の注意事項) シンポジウムの同時通訳(日本語—英語)はzoomを利用して行います。通訳をお聞きになりたい方は、イヤホンを忘れずにご持参ください。シンポジウム参加者は神奈川大学の無料wifiをお使いいただけます。

国際シンポジウム・檜山セミナー 抑圧と抵抗の時代—アートとアクティヴィズムはアジアを変えるか

2024年6月15日(土) 15:45—18:15

神奈川大学みなとみらいキャンパス

申し込み: <https://forms.gle/RRfrNjboMtQaaFvq9>

セミナーの趣旨

国際情勢が緊迫する今、プロパガンダによって人々を煽り、ナショナリズムを高め、恐怖や憎悪を生み出して社会の対立を引き起こしている現状と歴史に、我々はどう向き合うべきでしょうか。自らの言論・表現空間を冷静に分析し、それを通して形成される集団のイメージが自らの社会に、国際政治にどのような影響を与えているのかを検討する必要があるのではないのでしょうか。

私たちは文学、映像、絵画などのアート作品、各種の展示、教科書や教材、メディアを通して集団のイメージを形成し、集合的記憶を蓄積してきた。時代を経て、現代の情報伝達力はデジタル技術によるところが大きくなりました。ウクライナとロシアの戦況、香港やミャンマーの民主化運動、ガザの情勢悪化、台湾海峡をめぐる情勢などをめぐってやり取りされる情報は、私たちが物事を識別する能力に影響を与えています。

本セミナーは、検閲、展示妨害、ハラスメント、不平等、そしてネットにおける暴言の炎上といった悪意や不作為に対する抵抗、抑圧や支配の構造に抗い、歴史の記憶を再構築し、現在進行形の社会問題へのアプローチを再検討しようとするさまざまな表現活動を学術的かつ実践的に論じることを目的とします。

「アート」と「アクティビズム」を結合した混成語「アーティビズム」がアーティストや音楽家によるイベントや作品を通して知られるようになってきましたが、アーティビズムは権威主義への対抗、性的マイノリティやフェミニスト、先住民族の反発、反戦、反グローバリゼーションの抗議が出現し、拡散する中で、発展していきました。意識を高めたり、変化を促したりする手段として、映画や音楽、演劇などの従来のほか、ストリート・アート、トークショー、抗議デモ、ヴァンダリズム(故意に他人の所有物を破壊や損傷、または落書きする行為)などの活動も利用されています。昨今、バンクシーの作品などを通して、社会的な問題に対して、視覚的に何らかの意思を訴える「社会派アート」が注目されていますが、バンクシーのようなプロの芸術家だけでなく、市民による木版画運動や行動芸術、ソーシャルメディア上の抵抗芸術がその価値を認められています。

本セミナーでは、対立が激化する社会運動や戦争のリスクを抱えるデジタル時代の言論空間において、<権力と反権力>、<反逆者と抵抗者>といった対立するフレームがどのように形成されているのか、文化・言語的帰属、集団心理と恐怖や憎悪の感情に関連し、内集団(私たち)と外集団(彼ら)がどのように表現

されているのかを明らかにします。さらに、暴力を利用する対立構造の下でも、アートやさまざまな表現を通じて、どのような条件であれば、調整、譲歩、対話が可能であるのかを検討します。

プログラム

1. 基調講演

Huang Yuhan 黄雨晗 コウ ユーハン

ロチェスター工業大学 助教授、中国出身のフェミニズムアクティヴィスト。ジェンダーの不平等が東アジア社会の社会的、政治的、文化的システムにどのように組み込まれているのか、女性および性的少数者に対する政治的および制度化された暴力に反対するフェミニストやその他の社会運動について研究している。

Lin Sun Oo リン スンウー

ドキュメンタリー「笑いごとじゃない」プロデューサー。ミャンマーを拠点とするインディペンデント映画制作会社ターグー・フィルムズの共同設立者。制作した短編ドキュメンタリー映画の複数に受賞歴があり、人権と人間の尊厳の国際映画祭 2015 で最優秀ドキュメンタリーに与えられるアウンサンスーチー賞を受賞した『This Land is Our Land』は代表作である。短編映画制作の第一作は『Acceptance』で、2019年の第9回ワタン映画祭で観客賞と最優秀女優賞を受賞した。2020年には本作品を制作し、第10回ワタン映画祭で最優秀ドキュメンタリー賞を受賞した。2021年の長編映画『The Mist of Maya』はロカルノ国際映画祭オープン・ドアに入選した。現在、初の長編ドキュメンタリー作品『The Birdwatcher』の制作に着手している。リン・スンウーは映像作品制作のほか、ミャンマーの少数民族に対して初心者向けの映画制作のワークショップなどを手がけている。

ドキュメンタリー「笑いごとじゃない」

<https://vdp.cseas.kyoto-u.ac.jp/film/笑いごとじゃない/>

著名な政治風刺漫画家ウー・ペーティンの深い洞察力を映し出す本作品は、風刺という芸術を通して人々の心を揺さぶる。1996年に録音されたまま眠っていた一連の音声テープを使い、ミャンマーの激動する政治情勢と風刺の歴史を掘り下げる。この作品は社会を映す鏡としての報道の自由と政治風刺漫画の意義を表明するものでもある。

2. ミニトーク（1）中華圏と東南アジアのアート・アクティヴィズム

居原田 遥

沖縄県生まれの東アジア、東南アジアのアート・アクティビズムを研究・調査するインディペンデントキュレーター。東京藝術大学大学院博士後期課程在籍。

3. ミニトーク（2）国境を越える活動の可能性

Hnin Htet Htet Aung

一橋大学国際・公共政策大学院修士課程、ミャンマー活動家、ミルクティー同盟日本戦略会議メンバー。

市原 麻衣子

一橋大学大学院法学研究科および国際・公共政策大学院教授。一橋大学国際交流担当副学長補佐。World Movement for Democracy、East Asia Democracy Forum、日本ファクトチェックセンターの運営委員も務める。専門は国際政治学、民主化支援、日本外交、影響工作。米ジョージ・ワシントン大学大学院政治学研究科博

士課程修了 (Ph.D.)。著作に、Japan's International Democracy Assistance as Soft Power (New York and London: Routledge, 2017)などがある。

司会：

本名 純

立命館大学教授。東南アジアの政治発展（民主化、政治と治安機関の関係、選挙政治、政党政治、政治暴力、テロリズム）、インド太平洋の非伝統的安全保障問題（海賊、テロ、人身取引、麻薬密売、森林伐採、違法漁業）の地域協力を研究。

討論：

阿古 智子

東京大学総合文化研究科教授。現代中国の政治・社会変動、中国に関わる国際関係や人権問題を研究。自宅の一部を開放してアーティストや活動家を受け入れ、コミュニティ活動や国際交流のためのスペース「あじあんコモンズ」（亜州公共圏）を主催。

マリオ ロペス

京都大学東南アジア地域研究研究所准教授。アジア太平洋地域における看護師・介護士の国際的移動を研究。東南アジアビジュアルドキュメンタリープロジェクトを運営。

タイムテーブル

15:45-16:15 ドキュメンタリー「笑いごとじゃない」上映

16:15-16:35 リン スンウー 制作秘話 ミャンマー情勢他 Q&A

16:35-16:50 居原田 遥 東南アジアにおけるアートとアクティヴィズム

16:50-17:00 中華圏アクティヴィストによるパフォーマンス (Hikaru, etc.)

17:00-17:25 Huang Yuhan 華人フェミニズム運動 Q&A

17:25-17:55 ディスカッション ロペス&阿古、登壇者全員

17:55-18:15 トランスナショナルアクティヴィズムの可能性 Hnin Htet Htet Aung、市原

*アート・アクティヴィズムに関して、中華圏の展示（キュレーター：Hikaru）と東南アジアドキュメンタリー映画の上映を6月15-16日、神奈川大学みなとみらいキャンパス4階にて行う予定です。

Hikaru

中国生まれのグラフィックディレクター。ESMOD TOKYO#1 Junior Designer Fashion Show Awards (2016年)、STOPMOTION MOVIN MV CLIPPED (2021年)を受賞。Magazin・TANK (London)、Nylon Tokyo、Esmo Japanなどのプロジェクトを担当。江南大学（文学学士）。